

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591200013		
法人名	大平有限会社		
事業所名	もみの木グループホーム		
所在地	柳井市中央1-8-1		
自己評価作成日	令和2年12月23日	評価結果市町受理日	令和3年5月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と介護スタッフが、お互いに支え合い、大きな家族として生きていくという理念【共に生きる。友に生きる。】を柱として、プロ意識を持ち、大きな家族を支える集団として団結し、アットホームで笑顔の絶えない生活空間を目指し、サービスを提供しています。一人一人を大切に個々の思いを汲み取り寄り添う介護をするように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「共に生きる 友に生きる」を職員全員で共有され、利用者に寄り添われ、ゆっくり話を聞かれ、その人の思いを大切にされて日々のケアにあたっておられます。この1年間は、コロナ禍で外部との交流が制限されているなかで、事業所内で、職員と利用者が一緒に楽しめることを考えて様々な工夫されています。食事は、法人の栄養士の献立で、副食は法人厨房からの配食を利用され、ご飯と汁物は事業所でつくっておられます。月1回は、利用者職員と一緒にプランターで収穫した野菜を活用されて、ユニット毎に様々なメニューを考えた楽しい昼食づくりをしておられます。利用者は、下ごしらえやテーブル拭き、お盆拭き、お茶くみ、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にされて、季節の行事食やバラエティに富んだおやつ作り、誕生ケーキのトッピングなど、食べる楽しみを色々と工夫されています。テレビの視聴、毎朝の新聞の取り込み、新聞や週刊誌、絵本を読む、チラシ広告を見る、季節の飾りつけづくり、口腔体操、ラジオ体操、首や指の部分体操、手足の体操、ボール遊び、魚釣りゲーム、トランプ、カルタ、習字、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、折り紙、紙工作、言葉遊び、ことわざ遊び、パズル、脳トレ、縫物(雑巾)、ごみ箱づくり、手づくりカレンダーの色塗り、年賀状や暑中見舞いを書く、洗濯物干し、洗濯物の取り入れ、洗濯物たたみ、収納、モップかけ、掃除、食事の準備や後片付け、プランターでの野菜づくり(水やり、草取り、収穫)、季節の行事、運動会(玉入れ、パンくい競争、魚釣り等)など、多くの楽しみごとや気分転換の支援をされて、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に生きる 友に生きるの理念をスタッフルームに掲示し、勤務前に声に出して読んでから勤務に入るようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、出勤時に個々で声を出して読んで確認している他、ユニット毎に少人数で確認して共有している。利用者に寄り添い、ゆっくり話を聞き、その人の思いを大切にして、日々実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、総会等で事業所の紹介を行っている。例年なら地域の祭りや、商店にでかけたり、近所の知り合いの方が来られたりしているが、今年は殆どできていない。	自治会に加入している。コロナ禍で、自治会や地域の行事は中止となり、ボランティアの来訪や他施設との交流も控えており、利用者が地域の人と交流する機会は少なくなっている。毎週来訪している移動パン屋の人との交流がある他、近所の店にソフトクリームを買いに行った時や隣接するサービス付き高齢者住宅の住民と挨拶を交わしている。家族から野菜や果物の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長や民生委員、に参加してもらっていたが、今年は、書類送付と意見を求めることしかできていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員でのミーティングも今年はまだできていないが、少人数での話し合いやミーティングの中で具体的な改善に取り組み意義を理解してもらおうようにしている。	管理者は、評価の意義を口頭や書面で職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し、自己評価を記入後、管理者がまとめている。評価のガイドブックはいつでも閲覧できるようにしている。評価を通して、コロナ禍における利用者の楽しみごとの発掘など個別ケアの振り返りができた他、集合研修の方法、ミーティングや勉強会のタブレット利用、オンラインでの評価などの検討課題が見つかり、できることから改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催することが出来ていない(新型コロナ感染拡大防止の為 R2年3月から)	会議は年6回開催している。新型コロナ感染拡大防止のため文書開催となり、メンバーに利用者の状況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告、避難訓練の報告、避難訓練の報告等の書類を送付し、意見交換を行っている。前回の外部評価結果から、地域メンバーの拡大として、老人クラブや婦人会など関係団体や関係機関へ呼びかけをして、郵便局職員の参加を得ることができている。参加者からは、コロナ禍でもあり、身体を動かす運動の希望があり、体操の種類を増やしたり、ビデオを活用して身体を動かす時間を増やすなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町の担当者とは新型コロナ対策等の関係で、今までよりも多く電話、FAX、ZOOM会議等を行い協力関係が出来ている	市担当者とは、運営推進会議で情報交換を行う他、電話やFAX、直接に出向いて相談や助言を得るなど、協力関係を築いている。市主催によるウェブ開催でのコロナ対策研修会に参加している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階に居住空間があるので、階段は転落の危険がある為、施錠しているが、1階の玄関、エレベーターは、夜間以外はいつでも出入りできるようにしている	「身体拘束に関する指針」を作成している。身体拘束・虐待防止委員会を中心に、職員は、年4回勉強会で身体拘束について学び理解している。年1回、全職員を対象に身体拘束についてのアンケートを実施し、自己評価を行っている。スピーチロックについては、職員間で注意して、勉強会やミーティングで話し合っており、気になる言動については管理者が指導している。玄関は施錠しておらず、利用者が外に出たい時は職員と一緒に出かけるなど、利用者が閉塞感を持たないよう配慮している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2, 3ヶ月に1回勉強会や、ミーティング、紙面で、身体拘束の種類や、自分たちの日頃の言動を振り返るようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年は新型コロナ感染拡大防止のため、全員で集まる機会は減ったが、書類を各自に配布したり、個々に話しをしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、必ず管理者が入居者、入居者家族とゆっくり話をしている。解約や改定等の時も、疑問に答えたり十分な説明を行うように努力している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループ入口に【お話し聞かせ手箱】という箱を設置したり、第三者委員会の連絡先を分かりやすい場所に掲示しいつでも苦情等を受け付ける様にしている	相談・苦情の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員、外部機関を明示して、契約時に利用者や家族に説明している。家族には、面会時や運営推進会議時、電話で意見や要望を聞いている。運営推進会議への出欠届の余白に意見記入欄を設けている。利用者を担当している職員が家族通信で毎月利用者の近況を報告したり、面会時に、利用者の状況を詳しく伝え、家族からの意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。玄関に意見箱を設置している。個別のケアに対する要望はその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個別の面談を行ったり、日頃から職員の意見を聞き、職員から出た要望は施設長に伝え意志が反映できるように努めている。	少人数でのミーティングや年1回の個人面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。他、委員会(レク、身体拘束)の場や日常業務の中で聞いている。職員から出た意見や提案は、電話や月1回の会議で施設長に伝えられている。勤務体制の変更や利用者の外出についてなど、職員の意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数、資格だけでなく、評価制度を導入し、明確な評価や、目標を持つことが出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は殆ど外部研修に行くことが出来なかったが、内部研修は出来るだけ行うとともに、ユニットごとに、話し合いをおこなうように努めていた。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。この1年は、参加を控えている。内部研修は、年間計画に沿って、月1回、安心安全な移動介助、職員行動規範、身体拘束、記録、熱中症、緊急時の対応、感染症、認知症介護、権利擁護、口腔ケア、誤嚥などをテーマに実施している。新人研修は、到達目標を作成して、1ヶ月間マンツーマンで先輩職員について学んでいる。資格取得は、参加費用の援助があるなど、働きながら学べるよう支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ZOOM会議に参加できるようにタブレット等の環境をつくり、ZOOM会議等の参加方法や、招き方等の研修を職員におこないサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望を傾聴しながら、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事、などをしっかり聞きながら、良い関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の実情を把握しながら、的確な対応が出来る様に努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活リズムや習慣を理解し、【友に生きる】一員として関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を電話や家族通信で知らせ、共に本人を支える関係を築くことで、本人と家族との絆を大切にしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブでなじみの店に出かけたり、地元の祭りや行事に参加したり、することで、関係性が崩れないように努めている。	面会制限のため例年のような友人・知人の訪問はないが、オンラインを活用して家族と面会している他、年賀状や手紙、電話、携帯電話での交流を支援している。事業所としては、市内や地元へのドライブを行い、家族の協力を得ての美容院の利用やドライブなど、これまでの馴染みの人や場所の関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者どうしの人間関係を把握し、職員が間にはいることで、孤立を防ぎ、お互いに支え合える関係づくりの構築に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて相談や、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と1対1で過ごす時間を作り、本人の意向や意志を汲み取り、希望に添える様に努めている。	入居時の担当ケアマネジャーからの情報や事業所独自のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や様子、職員の気づきを個人記録に記入して、利用者の思いや意向の把握に努めている。職員は、申し送りノートで情報の共有をしている。把握が困難な場合は、家族から話を聞き、職員間で話し合っ本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族から出来るだけの情報を聞き、本人とも話を聞く中で把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム日誌・バイタルチェック表・受診記録等で継続的に現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者によるカンファレンス・モニタリング、職員全員によるカンファレンス事前アンケートを行い、それを反映して介護計画を作成している。	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に、全職員でカンファレンスを行い、利用者の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。利用者の担当職員が毎月モニタリングを実施し、6か月毎に見直している他、利用者の状態に変化があるときはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、受診記録等を各自がきちんと確認するように徹底し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かすようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の要望を聞きながら、その時々に必要な様々な支援やサービスを行うように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りや散歩・買い物などを通じて交流が図れるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を聞いている。必要に応じて職員が受診支援を行い、それぞれの医師と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、それぞれ月1回の訪問診療がある。受診は事業所で支援しているが、総合病院への受診は家族の協力を得ている。他科受診(皮膚科、眼科等)は、家族の協力を得て事業所が支援している。歯科は、希望に応じて往診や2週間に1回の口腔ケアを実施している。日常の健康管理は職員が行っており、夜間や緊急時は、看護師に連絡し、かかりつけ医や協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時の全身チェック、日々の生活の中での変化や気づきを看護師に報告し、適切な受診を受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師・看護師と連携し、情報を伝え、退院時のカンファレンスを行い適切なケアが出来る様に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の思いを聞き、本人の状態を見ながら、段階ごとに医師・看護師・家族・ケアマネが、話し合いを行い、相談しながら支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の事業所の指針」に沿って、契約時に事業所のできる対応を家族に説明している。実際に重度化した場合は、「重度化した場合における(看取り)指針」に基づき、改めて家族に意向を聞き、「看取り介護についての同意書」により確認して、主治医や看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めてチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリ・ハットの記入後、カンファレンスを行い情報の共有に努めている。職員研修を行い、緊急時の対策を周知している。	事例が発生した場合には、その場にいた職員が、ヒヤリハット・事故報告書に記録し、その日勤務している職員で対策を話し合い、申し送り時や記録を回覧して共有している。少人数のミーティングで再検討して一人ひとりの事故防止に努めている。内部研修で、緊急時の応急手当と初期対応について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。火災時には地域の方にもたすけてもらえるようお願いをしている。	地震、津波、台風、洪水、火災時に対応した「防災マニュアル」を作成している。防災訓練は、年2回、利用者も参加して実施し、1回は、火災訓練で、通報、避難、消火訓練を行い、1回は、地震・水害を想定した避難訓練を行っている。各居室の入り口の名札で「避難完了」の確認をしている。緊急連絡網に地域の人2名が入り、協力体制を築いている。非常時の備蓄として飲料水や米や缶詰などを整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳を損なわないような声掛けや接し方をするように配慮している	職員は、内部研修で高齢者に対する介護のあり方について学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言動や対応については管理者が指導している。個人記録は適切に保管され、個人情報には遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちや希望を聞きながら、日々介護している。自分から意志を表しにくい方ともゆっくりと傾聴し、寄り添うようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の状態を見て、希望を聞きながら支援するようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、自分で選んでもらい、買い物も一緒にいくようにしている。理美容は希望を聞きながら、支援し、行きつけの美容院に行かれる方は、送迎の支援をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、洗米、食器洗い、お盆拭き、洗濯物干し等出来ることを職員が支援しながら一緒に行っている。	食事は、法人の栄養士の献立で、副食は法人厨房からの配食、ご飯と汁物は事業所でつくっている。月1回はユニット毎にメニューを考えた昼食づくり(うどん・いなり寿司、ピザ、カレーライス、お好み焼き、ソーメン流し、寄せ鍋)をしており、利用者と一緒にプランターや畑で収穫した野菜(胡瓜、トマト、ピーマン、なす、おくら)を活用している。利用者は、下ごしらえ、テーブル拭き、お盆拭き、お茶くみ、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食(おせち、節分の恵方巻、雛祭りの寿司、七夕のゼリー、年越しそば)、誕生ケーキのトッピング、おやつづくり(ホットケーキ、アンパン・チョコパン、スイートポテト、ぜんざい、かき氷、パフェ、たこ焼き)など、食事を楽しむ支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録している。一人一人の状態や体調に合わせて量や食事形態を工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ブラッシング・うがい・義歯の洗浄を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録をつけ、1人1人の排泄パターンを把握し、定期的な声掛けを行ったり、本人の様子を見ながら誘導することで自立の支援を行っている。	ホーム日誌に記録して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をし、個々に応じた対応を行っている。水分不足にならないように水分量の記録もしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望や体調に応じて入浴支援を行うようにしている。	入浴は毎日、9時30分から12時の間と13時30分から16時の間可能で、利用者の希望を聞いて対応している。利用者の状態により、清拭、シャワー浴、足浴などへの対応やゆず湯など入浴を楽しむ工夫をしている。入浴をしたくない利用者には、タイミングに合わせた言葉かけや職員の交代、時間を変更するなどして対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の習慣に合わせて入眠・起床の声掛けを行うようにしている。定期的、又は必要時にシーツの洗濯、布団干しを行い、安眠できるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録・往診記録を作成し、服薬内容が変わった時や、個々の服薬している薬の内容等記録し、服薬支援、症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や楽しみを知り、行事企画や個別レクをおこなうことで、楽しく過ごせる様に支援している。	テレビ(ニュース、動物番組、子どもの出る番組、歌番組)の視聴、毎朝の新聞の取り込み、新聞や週刊誌、絵本を読む、チラシ広告を見る、季節の飾りつけづくり、口腔体操、ラジオ体操、首や指の部分体操、手足の体操、ボール遊び、魚釣りゲーム、トランプ、カルタ、習字、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、折り紙、紙工作、言葉遊び、ことわざ遊び、パズル、脳トレ(漢字、計算、迷路)、縫物(雑巾)、新聞紙でのごみ箱づくり、手づくりカレンダーの色塗り、年賀状や暑中見舞いを書く、洗濯物干し、洗濯物の取り入れ、洗濯物たたみ、収納、モップかけ、掃除、食事の手伝い(テーブル拭き、下ごしらえ、下膳、お茶くみ)、プランターや畑での野菜づくり(水やり、草取り、収穫)、季節の行事(節分、節句、母の日、七夕、敬老会、誕生会)、運動会(玉入れ、パンくい競争、魚釣り等)など、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴など、出来るだけ毎日個別に行うようにしている。	ベランダや外庭での外気浴、河川公園などへの散歩、市内や街並みのドライブ、地元の八幡様の初詣など出かけられるように支援をしている。コロナ禍で外出は控えているが、家族の協力を得て、美容院やドライブに出かけている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人に常時お金を持っていてもらうことは難しいが、外出時や買い物に行ったとき、本人が自分でお金を払うことが出来る様に支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは、いつでもおこなっている。手紙のやり取りも自由にできる様になっている。年賀状・暑中見舞いを家族に本人が送るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるように季節に応じた花や掲示物をホールや廊下などに飾っている。季節に合わせて、温度・湿度・換気を行い、居心地の良い空間になるように工夫している。	玄関ホールには、季節の花や飾りつけがあり、利用者同士が座れる長椅子が用意してある。リビングは、明るく広々として、畳のコーナーやソファ、テレビがあり、利用者が思い思いの場でくつろげる空間となっている。テーブルには季節の花を生け、室内には歌が流れている。壁面には、利用者と一緒に作った季節の作品や行事の写真、書初め、カレンダーが飾ってある。キッチンからは、食事をつくる匂いや音がして生活感がある。部屋の温度、湿度、換気に配慮し、利用者が心地よく過ごせるようにしている。リビングからベランダに出ると、市街の景色や遠くの山並みを眺めることができ、外気浴や日光浴の場となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室、廊下の一角で1人になる時間が出来る様にしている。ホールでも、雑誌を読んだり、おしゃべりをしたり自由に過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物を持ち込んで頂くように家族にお願いしている。本人が、安全で落ちついて過ごせる空間になるように工夫している。	ベッド、整理ダンス、衣装ラック、時計、椅子、ごみ箱、空気清浄機、加湿器、テレビ、仏壇、ぬいぐるみ、化粧品など利用者が使い慣れたものが持ち込まれている。習字、ぬり絵、家族の写真、カレンダー、色紙、ハガキ、初詣のお守りなどを飾って利用者が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置などで、安全で自立した生活が送れるような環境を作っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 もみの木グループホーム

作成日: 令和 3 年 5 月 21 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	職員全員が事故防止の取り組みや事故発生時に備えての実践力を身につける為の応急手当や初期対応の研修を行っているが、なかなか実践に役立てていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が転倒・誤薬等のリスクを十分に理解し、事故防止に取り組む事が出来る。 ・初期対応の方法や応急手当の方法をきちんと理解し実践力を身につける事が出来る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全職員が転倒・誤薬等のリスクを十分に理解できるようにしっかり研修する。 2. 初期対応や応急手当の方法を看護師に指導してもらう 	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。